無量寿

2017 春

【発行】雲夢山壽命寺　大津市雄琴 3-19-36　TEL/FAX 077-572-5125　http://jumyouji.net/

CONTENTS

[P2]法話”還って来る仏さま” [P3]おてらおやつクラブ活動報告 [P4]伝灯奉告法要団体参拝と花まつりのご報告 他

永代経法要 5/14㊐

【昼】14：00〜16：00
【夜】19：30〜21：30

【講師】瓜生 崇（うりう たかし）師　（東近江市 真宗大谷派 玄照寺住職）

1974年東京都生まれ。一般家庭→親鸞会（浄土真宗系新宗教）→システムエンジニア→真宗大谷派という異色の遍歴をお持ちのご講師。でもご法話はど真ん中直球勝負。浄土真宗の肝要をズバッと射抜きます。とにかく一人でも多くの方に師の熱いご法話を体験してほしいと思います。ちなみに好きな動物はネコ、だそうです。

春になりました。「なりました」と当たり前のように書きましたが、ついこの前まで雪道を震えながら歩いていたことを思えば、このダイナミックな変化を毎年、当たり前のように繰り返す自然の営みに驚かずにはいられません。

さて来月寿命寺では永代経法要をお勤めします。これは今私達が読んでいるお経が永代伝えられていくことを願い勤める法要で、換言すればお経＝「南無阿弥陀仏」の道場たるお寺が永代護持されるようお勤めするものです。

恒例行事ですがこの営みに今年も遇えるのは決して当たり前ではありません。ご先祖様がお念仏とお寺の大切さを知り、それを後世に残したいとご苦労くださったからこそ、今年も当たり前のように勤めることができるのです。

「前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え」。道綽禅師のお言葉から味わえば、永代経にお参りするのはご先祖様のお導きに手を引かれ、その御跡を訪ねることと言えます。

次代にこれを引き継ぐにはまず今、私達がみ教えを受け取ることが大切です。爽やかな気候で仏法聴聞に最適の時期、ご家族ご近所お誘い合わせの上お参りいただけますよう、ご案内申し上げます。

本山「伝灯奉告法要」団体参拝

四月十五日（土）、本願寺の「伝灯奉告法要」に寿命寺から希望者三十名で団体参拝しました。

この法要は本願寺の法灯が第二十四代即如門主から第二十五代専如門主に継承されたことを仏祖に奉告するもので、昨年秋から勤められており全国から大勢お参りされています。

今回の法要は阿弥陀堂と御影堂を中継で結び、両堂同時に二つのお勤めをするという今までにない形で行われました。お勤めの節も西洋の音階や楽器を取り入れた様式で美しく新鮮に感じられました。

法要に引き続いての「伝灯のつどい」ではご門主とご家族の皆さんのお声に触れる時間が設けられました。この中でご門主は「お寺では自分と同年代もしくはそれより若い方のお顔はほとんど見られない。どうか日頃から家族揃ってお仏壇に手を合わせる習慣を大切にして、お念仏を次代に引き継いでもらいたい」と呼びかけられていました。またこのつどいで一番堂内を賑わせたのは、次のご門主（になられるであろう）、敬（たかし）さまでした。五歳と幼いにも関わらず一生懸命お話になる姿が愛らしく、お参りの皆さんから笑顔が溢れるひとときでした。

法要前には京都駅に隣接する料理屋で会食し、ご門徒同士の親睦も深めることができました。お参りいただいた皆さま、お疲れ様でした。また希望者の取りまとめや事前の段取りに奔走いただいた総代、世話役の皆様にも御礼申し上げます。

なお法要はこの後五月の末まで勤まります。個人でもお参りできますので今回ご一緒できなかった方も、ぜひご参拝ください。

花まつり〜お釈迦さまのお誕生をお祝いしました。

4月8日、お釈迦さまの誕生日お祝いして「花まつり」を開催しました。今年はあいにく雨で去年より来てくれた子たちの数は少なかったですが、それでも楽しく賑やかな時間を過ごすことができました。

最初に一人一人誕生仏に甘茶かけをしてもらってから、みんなで「らいはいのうた」をお勤めしました。その後お釈迦さまの生涯についての絵本の読み聞かせをしました。この絵本は特殊なつくりになっていて、開くと場面が立体的に飛び出してくるようになっています。サイズも大きく迫力満点、また絵も綺麗です。仏教婦人会会長さんによる朗読も臨場感たっぷりで、みんな食い入るようにお話に聞き入ってくれました。

この他、お花探しゲームやお釈迦さまの塗り絵で楽しく遊びました。子どもたちの心に仏さまやお寺の雰囲気がいい思い出として残るとありがたいことだなと思います。みんな来年もまた来てね！！

家庭報恩講を勤めましょう。

報恩講は親鸞聖人への感謝から勤めるものですが、広げればそのみ教えを引き継いでくださったご先祖さまへの報恩の思いも含まれます。年に一度はご家族そろってお仏壇に手を合わせる時間を持ちましょう。時期は問いません。例えば大切な方の祥月命日に合わせて勤めるのはいかがでしょう。詳しくは住職までご相談ください。

住職法話

還って来る仏さま

去年は寿命寺のご門徒のお葬式は一件もありませんでした。でも今年はこの五ヶ月足らずで既に四件もお勤めしました。世の無常を思わずにはおれません。そしてそれはいつも大切な問いを私に投げかけてきます。亡くなった方はどうなったのか。私は何のために生きているのか。そして私はどうなるのか。

浄土真宗ではお念仏を頂かれた方がこの世の命を終えたら、阿弥陀如来のはたらきによってお浄土に往き、そこで悟りを恵まれて仏さまになると説かれます。そしてさらにその仏さまはすぐにこの娑婆に還って来られて、残された私たちに寄り添い、見守り、仏の道に導いてくださると親鸞聖人は仰います。

この世の命を終えられた方は、仏さまとなってまた還ってくる…。真宗に馴染みのない方がここだけ聞くと、故人の魂があの世から舞い戻って残くるようなイメージを持たれるかもしれませんが、仏教は無常を説く教えですから永遠に不変であり続ける霊魂の存在は認めません。だから親鸞聖人が亡き方が仏となって還ってこられる言うのは、固定的な何かが舞い戻るということではありません。ただ、亡き方が様々な手立てを通して私を仏法に導く、そういう「はたらき」があると仰せなのです。

今の私を支える亡き方の思い出

はたらき。そんな抽象的なことを言われたらますますイメージしにくいかもしれませんが、私は亡き方の「思い出」や「面影」ということの中にこのはたらきを感じることがあります。

いやいや、思い出というのはその人がまだ人間として生きていた過去の出来事で、アルバムに収められた写真のように動かず固定され、時間とともに色あせて古びていくものでしょう？それが還ってきた仏さまのはたらきだなんて、何を言ってるの？と訝しく思われるかもしれません。

確かに思い出自体は過去の出来事の記憶に過ぎません。でもその過去の出来事が今を生きる私に影響を及ぼす。そういことはないでしょうか？

今は亡き懐かしい方があの時私に向けた何気ない一言、何気ない仕草。そういうものをふとした拍子に思い出し、クスッと笑わさせられて気が楽になる。グッときて心が励まされる。ハッとして気付かされる。ドキッとして反省する。ジワッときて心が揉み解される。そんな経験はありませんか？

あるいは同じ思い出が年月を経て違った意味を帯びてくるということもあるのではないでしょうか。例えば若い頃は反発しか覚えなかった親の厳しい言葉が、その時の親と近い歳立場になってみて、厳しさに込められていた願いに気づき、大切な思い出に変わるというような。

こうして考えると、亡き方の思い出とは単なる過去の出来事の記憶ではなく、私が忘れている間もいつも私に寄り添い、こうしている今もはたらきかけ続けているものだと感じられます。そして私の時々の状況や心持ちに応じて、勇気づけたり、示唆を与えたり、反省させたり、優しく包んだりして、私の命を支えてくれています。

このたらきを感じとった時私は、あゝこれは今は仏さまとなられた懐

かしいあの方が、思い出を通して私に語りかけ導いてくださっているんだなと頂き、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏とお念仏申し上げるのです。

仏となる尊い命を生きる

こんな風に懐かしい方の思い出に仏さまのはたらきを感じてお念仏申していると、さらに大切なことに思いが及びます。

先述の通り亡き方の思い出はその方が生きている時に作られるもので、謂わば凡夫の所作です。でもその方がこの世を去られた後、その所作の中に仏さまのはたらきを感じられるのならば、今を生きている私のこの瞬間の何気ない振る舞いもまた、誰かの心に思い出として留まり、私がこの世の命を終えた後、その人の命を支える仏のはたらきをすることになるかもしれません。

つまり私は仏となる命を今生きているということです。このことに思い及べば、毎日の一挙手一投足、一呼吸一呼吸にも意味があることが知らされ、これまで漫然と過ごしてきた自分が恥ずかしくなります。でもだからと言って立派に振る舞えと言いたいわけではありません。いえ、立派にしようとしてできるような私では元々ありません。ただ言えるのは、どこで何をしていても、どんな姿をしていても、私の命は尊いということです。

生きているといろんなことがあります。時には自分で自分を投げ出してしまいたくなるような思いを抱くこともあるかもしれません。でもたとえ私が私を見捨てても、決して見捨てないのが仏さまのはたらきです。

皆さんも身近な懐かしい方のことを考えてみてください。その思い出は立派で良い思い出ばかりではないはずです。失敗して落ち込んだり、腹を立てておられたり…。けれどもそういう一見ネガティブな思い出にもまた、私を導く仏さまのはたらきを感じ取ることができるはずです。

失意の底で人生の意味を見失ってしまうような時こそ、懐かしい方の在りし日を具に思い出し、お念仏してみてください。そうすれば私の命にも確かに意味があることを知らされ、生きる力が生まれてきます。そしてその思いを持って周りを見渡せば、周囲の人々もまた仏さまとなる方々であったと敬うこともできるでしょう。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏…。

五条袈裟を購入しました。

一昨年の住職継職法要に際し「寿命寺門徒一同」から住職に過分なるお祝いを頂戴しました。随分と時間が経ってしまいましたが、今般これを持って「五条袈裟」を新調させていただきました。この度の本山の「伝灯奉告法要」の記念五条です。五月の永代経の折にご披露させていただきます。誠にありがとうございました。

おてらおやつクラブ

おてらおやつクラブという活動をご存知でしょうか？

法事や法要の際お参りの皆さまからたくさんのお菓子や果物が仏さまにお供えされます。法要後は住職家族で美味しくいただいていますが、法事が続いたりするとどうしても食べきれないものも出てきます。

おてらおやつクラブはこうしたお菓子や果物を「仏さまからのお下がり」として、貧困家庭の子どもたちにおすそ分けする活動です。寿命寺住職、坊守もこの活動に賛同し、毎月お菓子や果物を梱包して大津市内の支援団体にお届けしています。家庭への配布はこの団体を通して行われています。

4月12日、今月のおすそ分けを箱に詰めて発送いたしました。今回は法事などで頂いたお菓子に加え、先日の花まつりで余った「花まつりサイダー」と「ユーハイムのバウムクーヘン」も詰めさせていただきました。

届け先の子どもたちの顔はこちらからは見えませんが、こうした「お下がり」を通して仏さまのお慈悲の心が伝わればありがたいことです。

おてらおやつクラブウェブサイト　http://otera-oyatsu.club